1年目　年度末報告書	
1. 事業名	**市民社会の調査・発信力強化プロジェクト**
2. 実行団体名	**特定非営利活動法人 Tansa**
3. 実施期間	**2020 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日**
4. 報告期間	**2020 年 10 月 1 日～2021 年 3 月 31 日**
5.事業進捗に関する報告（概要）	**進捗状況**
中長期アウトカム **日本およびアジア圏の国々において、市民や若手のジャーナリストらが、市民の知る権利に応える公正で正確な情報を発信し、人権問題、医療、環境政策、国家・地方財政などにおいて、事態を改善する適切な判断をするための情報を、市民が得られる社会になる。**	
短期アウトカム 1.日本において、市民や若手ジャーナリスト、ジャーナリスト志望の学生らが、オンライン講座で専門的な知識やスキルを学ぶことにより、社会問題解決に取り組み、情報発信をし、それを読んだ市民が問題を共有し、問題の解決に動き出す状態。 2.日本において、参加した市民や若手ジャーナリスト、ジャーナリスト志望の学生らが、専門家からの取材方法を学ぶことにより、社会問題への意識を高め、問題解決のために情報発信をし、その情報が発信者以外の者にも拡散していく状態。 3.アジアにおいて、参加した市民や若手ジャーナリストらが、専門家から取材方法を学ぶことにより、社会問題解決のための情報発信をしてい	計画より進んでいる／計画どおり進んでいる／計画より遅れている／その他 (対象者が学び情報発信する段階には至っているが、それを読んだ市民を巻き込み社会問題解決に動き出している状況には至っていない。) 計画より進んでいる／計画どおり進んでいる／計画より遅れている／その他 (受講生の一部ではあるが、本事業を通して専門家から学んだことをもとに、各自の媒体を通じて情報発信したり、実際の市民活動に役立てたりしており、発信者以外への拡散が始まっている。) 計画より進んでいる／計画どおり進んでいる／計画より遅れている／その他 (新型コロナウイルス感染症が流行する状況下において、国境をまたいだ活動の実

る状態。	施が難しく、まだ着手できていない。来年度以降の実施可否も不透明な状況である。） 【短期アウトカム全体について】 計画より進んでいる　／　計画どおり進んでいる　／計画より遅れている／その他 （新型コロナウイルス感染症の流行によって、講座の開始時期が遅れたり、出前講座の回数が制限されたりした。その結果、現時点では当初計画していた回数および内容の事業を行えていない。）
アウトプット ①1-1　日本の市民や若手ジャーナリスト、ジャーナリスト志望の学生らが、取材の技術や知識を得る。 ②1-2　日本の市民や若手ジャーナリスト、ジャーナリスト志望の学生らが、社会問題解決のための情報発信をする。 ③2-1　日本の市民や若手ジャーナリスト、ジャーナリスト志望の学生らが社会問題テーマや解決への方法・取組を学ぶ。 ④2-2　日本の市民や若手ジャーナリスト、ジャーナリスト志望の学生らが、社会問題解決のための情報発信をする。 ⑤3-1　アジアの市民や若手ジャーナリストが国際的な視野を身につける。	計画より進んでいる／計画どおり進んでいる／計画より遅れている／その他 (オンライン講座の受講生は 1 年目で 44 人に上った。目標値の 200 人に向け順調な滑り出しと言える。） 計画より進んでいる／計画どおり進んでいる／計画より遅れている／その他 (まだ一部ではあるが、オンライン講座の受講生が、各自の媒体や寄稿を通じて作品を発表し始めている。） 計画より進んでいる／計画どおり進んでいる／計画より遅れている／その他 (新型コロナウイルス感染症の流行及びそれに伴う政府の政策により、イベント開催の回数が大幅に減ってしまった。） 計画より進んでいる／計画どおり進んでいる／計画より遅れている／その他 (新型コロナウイルス感染症の流行により、オンライン講座の開始時期が遅れ、より深い内容を学べるアドバンスド（応用）コースを開始できていない。アドバンスドコース受講生は、④2-2 に該当する作品の発表を目標にしている。） 計画より進んでいる／計画どおり進んでいる／計画より遅れている／その他 (新型コロナウイルス感染症が流行する状況下において、国境をまたいだ活動の実

	施が難しく、まだ着手できていない。来年度以降の実施可否も不透明な状況である。） 【アウトプット全体について】 計画より進んでいる　／　計画どおり進んでいる　／計画より遅れている／その他 （新型コロナウイルス感染症が流行する状況下において制限される活動は多数あるものの、実施できた個別の事業については着実に実績をつくることができている。）

6.事業進捗に関する報告（詳細）

「市民をジャーナリストに、ジャーナリストを一流のジャーナリストに」を目標に１年目の活動をスタートした。新型コロナウイルス感染症の流行により、オンライン講座の開始時期が遅れたり、出前講座の開催が限られたりしたものの、実施できた個別の活動の中身は意義のあるものだった。

「探査報道ジャーナリスト養成学校」のベーシック（基礎）コースには、44 人が参加した。全国の若手記者やメディアで働く職員、地方議員、NGO 職員、社会投資家、学生など、記者と市民を問わず幅広い層から集まった。約半年間、3 人の講師による 10 回にわたるオンライン講義（動画 30 本）と 2 回の研修会を実施した。名称を「学校」としたのは、講師と生徒の１対１の関係で完結するのではなく、学校のように生徒同士が互いに学びあい、横のつながりを作ってもらうためだ。受講期間が終わったあとも、そのネットワークを活かして日々の仕事や活動に役立ててもらう狙いがある。そのため、開始当初はコミュニケーションツール「Slack」を導入したり、「オンライン飲み会」といった交流会を開いたりと、運営側主導で工夫をしていた。次第に、受講生みずからネットワークづくりに注力するに至った。その一つとして、ジャーナリスト経験のない受講生が勉強会の開催に乗り出した。記者やメディア関係者など他の受講生を巻き込み、最終的に業種を超えた横展開につながった。受講生の熱意に応え、講師２名も勉強会へ飛び入り参加した。授業内で教えた内容を実践したというエピソードを聞くことができた。

オンライン講座以外では、出前講座を実施した。鎌倉市の市民活動団体からのオファーだ。講師１名が、10 年以上もの間こう着している社会問題についてヒアリングし、参加者 6 名とともに現場を回った。問題を突破するためのスキルを具体的にレクチャーし、その場で一緒に実践した。参加者からは「こんなに便利なスキルがあるとは知らなかった」「これから使えるノウハウだ」といった声が上がった。また、神奈川県で議員を対象とした出前講座（オフライン 1 回、オンライン１回）を実施した。情報公開請求のコツやオープンデータの取り方など、議員にとって実用的なスキルを伝えた。議員のスキル向上は、市民の暮らしや社会をより良くすることにつながっている。参加者は、県議員や市議員で、女性議員の割合が高く、また所属する政党を制限しない超党派で実施したた

め、議員同士が横のつながりを作る場にもなった。
一方で、新型コロナウイルス感染症の流行によって顕著に影響を受けた活動もある。オンライン講座の対面研修会だ。オンライン講座のメインコンテンツは動画のオンデマンド配信なので、好きな時間、好きな場所で何度でも視聴できる。受講生は全国に拡散しており、また仕事で忙しい人が多いため、「オンデマンド配信は受講しやすい」「何度も見られるので勉強になる」との声をもらった。しかし、感染症の流行で移動が制限され、研修会への対面での参加を諦めざるを得ない受講生が多数いた。そこで、当初の計画を変え、対面参加とオンライン参加を同時に実施し、受講生が自由に選択できるよう整備した。リアルタイム配信なので研修内容自体に差異はないが、オンライン参加者はゲスト講師と直接話したり連絡先を交換したりできない分、ネットワーク作りにおいては不便だった。
上記のとおり限られた状況下ではあったが、積極的な参加を試みる個人・組織との連携は活発だった。ゲスト講師には、朝日新聞元特別報道部長やワシントンポストの東京・ソウル支局長、元ニューヨークタイムズ東京支局長といった国内外のジャーナリストのほか、数々のジャーナリズム関連の訴訟に携わってきた弁護士や、これまで取材を受ける側だった官僚を招くことができた。さらに、ジャーナリスト志望の高校生・大学生が研修会のワークショップに特別参加したり、ジャーナリズム活動に興味のある市民が研修会へボランティア参加したりした。本取り組みに賛同した財団には、研修会場を無償提供してもらうことができた。今後も、あらゆる組織や個人とのコラボレーションの可能性を秘めていると言える。

7.資金計画に関する報告

1　資金計画どおりの執行状況ですか。　：　計画どおり進んでいる　／　計画より遅れている　／　その他（　　）
→①で「計画どおり進んでいる」以外を選択した場合の理由：
2　報告年度に用意する予定だった自己資金は集めることができましたか。：　計画より進んでいる　／　計画どおり進んでいる　／計画より遅れている
→②で「計画より遅れている」を選択した場合の理由：

8.報告期間における課題と次年度にむけた取り組み

一番の課題は、新型コロナウイルス感染症の流行下における対面コンテンツの実施だ。2020 年度後期に開催した、オンライン講座内の 2 回の研修会では、感染症の流行状況を考慮しオンラインまたは対面参加を各自選択できる「ハイブリッド型」をとった。届けるコンテンツ自体に差異はないが、次の 2 つの課題が浮上した。①オンライン参加者は、講師陣や他の受講生と直接会うことできない。②必要な機材や人手を補充したため追加の費用がかかる。①について、同じ会場にいた場合、互いに連絡先を交換したり、雑談の中から新たな発見が生まれたりするが、オンライン参加だと集団での顔合わせとなり親密になりにくい。研修会場には、受講生が普段知り合えないような豪華なゲスト講師陣を招いていただけに残念だった。②について、受講生の満足度を高めるため、単に研修会場で起きていることをオンライン参加者に配信するのではなく、会場参加者とオンライン参加者がインタラクティブに学べるコンテンツを実施した。また、オンライン参加者にストレスなく学んでもらえるよう、マイクやカメラの質と台数にもこだわった。それらを操作する人員も要した。その結果、当初の計画より費用がかかることがわかった。新型コロナウイルス感染症の収束の目処が立っていない今、次年度以降の運営方法に工夫が必要だ。対策として、「ハイブリッド型」の質を高めコストを抑えて運営できるよう、スタッフの事前研修や準備に力を入れる。また、感染症の流行によって、これまで社会で蓄積されてきたオンラインイベント実施のノウハウを学んでいく。

進捗状況全体の遅れは、感染症流行の影響が大きい。特に、2020 年 4 月に開始予定だった初回のオンライン講座が 11 月開始にずれたことにある。当初の予定では、2020 年度中にベーシックコースとアドバンスドコースをそれぞれ 1 回ずつ完了している予定だった。今後も半年ずつ予定が後ろ倒しになってしまうが、2021 年 6 月に開始予定のアドバンスドコースでは受講生のアウトプットに力を入れているため、当初計画していた事業のアウトカムおよびアウトプットが期待できる。また、国境をまたいだ事業の実施は感染症の流行動向に左右されてしまうが、コラボレーション候補の開拓は常に進めている。
次年度に向け、2020 年度の講座開始時期のずれと感染症の流行状況を加味した事業計画および資金計画の練り直しを実施する。事業計画においては、2021 年度中にアドバンスドコースと 2 回目のベーシックコースを完了させる。出前講座では、議員や弁護士、大学教授、市民活動団体などに向けた実践的なスキルおよびノウハウのレクチャーができるよう営業活動に力を入れる。資金計画については、上述した事業計画に沿った案を練り直す。

9.広報に関する報告

「探査報道ジャーナリスト養成学校 ベーシックコース」の広報活動は、以下の方法で行った。

（1）SNS、メールマガジン

9 月 1 日～10 月末日にかけて、Twitter（https://twitter.com/Tansa_jp）と Facebook（https://www.facebook.com/Tansajp）にて募集開始の周知を行った。また、寄付者や読者、これまでに親交のあるメディア関係者に向けたメーリングリストに案内を送った。

（2）個人への働きかけ

講師陣や Tansa メンバーが面識のある記者や市民に直接講座内容を紹介した。その結果、新聞記者、地方議員、NPO 職員、学生などが参加した。また、NHK からは研修の一環として 13 名が参加した。

（3）地方紙記者への直接訪問

受講生募集に向け、朝日新聞諏訪支局を訪問した。支局長の依光隆明氏は本講座の特別講師としても参加しており、諏訪支局は地元の若手記者が集まる場になっている。朝日新聞のほか、中日新聞、長野日報、信濃毎日新聞の記者に本講座の意義を直接説明し、結果 3 名が受講を決めた。

（4）講演会

編集長の渡辺が、琉球新報（沖縄県）、中日新聞（愛知県）、日本新聞労働組合連合の記者研修に講師として招かれ講演をした。各講演会の際に本講座の開催案内を行った。

出前授業は、講師陣や Tansa メンバーが面識のある市民に直接声をかけ実現した。

10.規定類の整備に関する報告

1　事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。:（完了）／　整備中

2　整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。：　全て公開した　／　一部未公開　／　未公開

→②で「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：　ウェブサイトのリニューアルおよび弊団体の定款変更を申請中につき、それらが完了次第、公開する予定です。

3　変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。：　はい　／　いいえ

→③で「いいえ」を選択した場合の理由：

11.ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1　社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。：　はい／いいえ

→①で「いいえ」を選択した場合の理由：

2　内部通報制度は整備されていますか。：　はい　／　いいえ

→②で「はい」の場合は、設置方法（複数選択可）：　内部に窓口を設置　／外部に窓口を設置　／JANPIA の窓口を利用

3　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。：　はい　／　いいえ

→③で「いいえ」を選択した場合の理由：

4　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。：　はい　／　いいえ

→④で「いいえ」を選択した場合の理由：

5　コンプライアンス委員会（※）は定期的に開催されていますか。：　はい　／　いいえ

※コンプライアンス委員会を設置していない実行団体は、担当部署または担当者に報告の対象となる不正行為を資金分配団体に報告済かを回答してください。
報告の対象となる不正行為とは、資金分配団体-実行団体間の資金提供契約書第 15 条に定めるものです。

→⑤で「いいえ」を選択した場合の理由：

6　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）：　内部監査を実施／外部監査を実施／実施する予定がない

→⑥で「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

14.活動の写真

オンライン講座　受講用の特設サイト

研修会の様子（ゲスト講師による講義、授業の振り返りワークショップ）